

釧路湿原自然再生協議会  
第2回 みんなの湿原小委員会  
議事要旨

日時：令和8年1月30日（金）13：30～16：30

場所：釧路地方合同庁舎5階共用第1会議室

オンライン（Zoom）併用開催

1. 開会
2. みんなの湿原小委員会の経緯について
3. 議事
  - (1) 令和7年度の小委員会の活動報告
  - (2) 全体構想の見直しと事業点検について
  - (3) みんなの取組みワークショップ
4. 講評
5. 閉会

●事務局

【1. 開会】

(オンライン参加者への注意事項、写真撮影、録音の説明)

(資料の確認)

【2. みんなの湿原小委員会の経緯について】

(資料4. みんなの湿原小委員会の経緯)

資料に基づき説明

●事務局

【3. 議事（1）令和7年度の小委員会の活動報告】

(資料5－1報告資料（北海道開発局 釧路開発建設部 治水課）

- ①観光事業者・農業事業者との連携
- ②自然再生事業箇所の利活用推進
- ③釧路湿原右岸堤防の利活用ルールを検討
- ④「かわたび×うまたび」・「かわまち」

資料に基づき説明

●委員

【3. 議事（1）令和7年度の小委員会の活動報告】

(資料5－1報告資料（釧路国際ウェットランドセンター）⑤湿地カード)

資料に基づき説明

●事務局

【3. 議事（1）令和7年度の小委員会の活動報告】

（資料5－2報告資料（釧路総合振興局 商工労働観光課））

資料に基づき説明

●事務局

【3. 議事（1）令和7年度の小委員会の活動報告】

（資料5－3報告資料（環境省 釧路自然環境事務所））

資料に基づき説明

●委員長

実施されてきた事業の説明について意見はあるか。（意見なし）

●事務局

【3. 議事（2）全体構想の見直しと事業点検について】

（資料6－1 全体構想の見直しと事業点検について）

（資料6－2 全体構想の目標達成のための実施状況）

資料に基づき説明

●委員長

意見がある場合は、資料と共に配布したアンケートに記載いただくか、事務局に2月10日までに意見を寄せてほしい。

-----休憩

●事務局

【3. 議事（3）みんなの取組みワークショップ】

（資料7 みんなの取組みワークショップ）

資料に基づき説明

ワークショップの進行は委員長代理にお願いする。

●委員長代理

（ワークショップの進行順について説明）

- 1) 自己紹介カード2枚の記入（1枚目：小委員会に関連ある自身の取り組みやミッション、2枚目：困っていること、協力して欲しいこと、参加したい取り組み、右上に所属先と名前を記入）
- 2) 自己紹介（自己紹介カードを手に持ち、1人2分で順次自己紹介）

- 3) 5分間の休憩
- 4) テーブルトーク 1回目 (各テーブルに分かれ4~5人で15分程度)
- 5) 席替え
- 6) テーブルトーク 2回目 (各テーブルに分かれ4~5人で15分程度)
- 7) フリータイム (5分程度)
- 8) 終了

-----自己紹介カード記入タイム

●委員長代理

記入が終わったので自己紹介タイムに移りたい。私から始めたい。

私は北海道教育大学釧路校で社会学を教えている。専門は環境社会学。

ゼミなどでは標茶町にお世話になっているが、あまり近隣市町村で活動範囲を広げられていない。

私の困り事は、学生が単位の出ない活動に参加してくれないということ。せっかくの機会があっても学生が乗ってくれない。

●委員長

私は釧路公立大学地域経済研究センターに着任して今年で8年目ほどになる。授業も行うが地域経済研究センターで受託調査も行っている。現在行っているミッションは、道東地域経済に係る各種調査、特に環境関係についてだが、環境に関しては素人である。

困っていること、協力して欲しいことは、環境関連の知識が乏しいため苦勞している。具体的な知識、特に理系、技術系の実務経験がある皆さんに協力いただきたい。

●委員

私は釧路川や釧路湿原での調査、主に水位や流速、植物の調査を仕事にしている。現在は帯広在住だが、釧路市出身で長く釧路で暮らしてきた。

これまで16年ほどのフィールド調査の経験から、専門知識をもって何か貢献したい。

●委員

私は標茶西地区農地・水保全隊に所属して長い間環境保全活動を進めている。この小委員会には発足当時から参加している。私たちが河川の上流で農地を開発することにより、土砂が流れ込んでしていると批判されていた。誤解を解くためにこの小委員会を通じて農業と自然を守ることを意味を学び、意見を共有しながら今日まで活動を進めてきた。標茶西地区農地・水保全隊が現在行っている活動は、牧場内にある排水路の整備である。

困っていることは、河川を保全して管理するための補助金が不足していることである。また、後継者が育たないということである。

●委員

私はトラストサルン釧路の理事をしている。この釧路湿原自然再生協議会には発足当時からずっと携わってきた。現在、4000ヘクタールほどの湿原が国立公園の範囲外であり、保護されていない場所になっている。そういうこともありナショナルトラストにより民間人の土地を確保して自然を守ろうとトラストサルン釧路を発足させた。現在600ヘクタールほどの土地を確保するに至ったが、まだ自然保護上の活動が不足している。保護されていない場所を狙って太陽光発電事業の施設建設が入り込んでいる。自然林の再生は、現在も環境省との協働などで進めている。自然再生法では再生を監視して点検することになっているため、釧路湿原自然再生協議会では大いに点検、再生活動、市民活動をやってほしい。

#### ●委員

私は釧路武佐の森の会の会長、日本野鳥の会の会員として自然保護活動に協力している。釧路から霧多布間の鳥類調査や小学生への自然観察の指導、春採湖の探鳥会という鳥を見る会の指導に協力して活動している。

#### ●委員

私は標茶町の塘路地区に住み、塘路地区で環境保全活動等を実施している。

困っていることは、観光客のガイドが外国人の場合に、所有者に許可なくバスの乗り入れや写真撮影のために立ち入る行動が見られることである。今年の春先にはキタサンショウウオの卵を大量に採取していたグループを発見し、警察に通報したこともあった。JR北海道のSL冬の湿原号が走る時期には、撮影のために邪魔な樹木を伐採する人もいた。

#### ●委員

私は標茶町で酪農経営をしていたが数年前に会長職となった。標茶西地区農地・水保全隊で委員と一緒に活動している。湿地を農地に改良して生産を拡大した時代もあったが、現在は離農者が相次ぎ、農地余りの現象が出ている。湿地を改良した農地の排水が非常に悪く、そこを何とか研究したいと思いこの小委員会に入った。

特に困っていることは、地域社会も農業者の離農で成り立たなくなってきたため、何か活性化できるものがないかということである。

#### ●委員

私は北海道河川財団で釧路湿原自然再生協議会の事務局全般に関わっている。自然再生事業地を見て歩いてもらうためには、どういう活用方法があるのかを一生懸命考えている。

課題は釧路湿原の案内や説明ができる人材をどう作るかということである。自然再生を含めた説明ができて、多少面白く喋ることができる人材が必要である。人材育成が必要だと思っている。

#### ●委員

私は釧路川水系の支流に設置した魚道の点検や、キタサンショウウオの生息調査、阿寒国際ツルセンターグルスで施設のボランティアとしてタンチョウの保護活動を行っている。

環境保全のためのボランティア作業などがあれば積極的に参加したい。

#### ●委員

私は長く釧路川カヌーネットワーク協会の会長をしている。本協会は釧路川のガイドを中心に構成されており、元々は北海道釧路総合振興局により作られた組織だと聞いている。個人的には塘路で小さな宿を営み、ガイドもしている。

困っていることは特別保護地区に立入りする人が多いということである。ガイドを始めて30年以上経つが、人の立入りによって湿原の生態系、特に植生は非常に変化しており、オオハンゴンソウやオオアワダチソウなどの増え方は異常なほどである。

本協会として困っていることは、設置している細岡カヌーポートのトイレの管理に使用する資金が枯渇しており、企業などに協力していただきたい。

#### ●委員

私の職場のミッションは観光客の誘致促進、PR、観光案内である。予算が少なく資料が印刷できないという実情がある。管内8市町村に加盟いただき、民間の方々に協力いただいて何とかやっている。観光案内では、自作のカヌーを釧路川で浮かべたいという群馬県在住の方からの問い合わせに対応した。その際は、カヌー事業者に協力いただき、釧路川で初心者が作ったカヌーを使用することは難しいことを伝えた。その後、屈斜路湖でカヌーを進水できたと報告いただいた。

釧路湿原では「釧路湿原てくてくMAP」に紹介されていても、実際に私が行ったことのない所が多い。今後ともPRしていきたい。

#### ●委員

私は釧路国際ウェットランドセンター、釧路湿原国立公園連絡協議会の事務局も兼務しており、湿地の利用や重要な保全の観点からの業務を遂行しつつ、釧路市役所として市内の春採湖の関係や外来生物への対応もしている。

困ったことは業務の中ではたくさんある。口外できないこともある。この小委員会の皆さんと取組みたいことは、学生だけでなく、全世代に向けた環境教育や湿地教育を実施することである。釧路湿原への理解を深めて、来訪者に話ができるようにすることが大事になってくると考えている。

#### ●委員

釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会は、全国組織の国立公園パークボランティアの一つであり、約70名程度が登録する団体である。主に、釧路湿原を管理する環境省の手伝いをしている。毎月、観光客が集まる駐車場や施設周りの清掃活動を実施している。また、特定外来生物のウチダザリガニやオオハンゴンソウの駆除、温根内遊歩道で観光客に草花を説明するガイド、達古武遊歩道などでの倒木の撤去、冬にはエゾシカの生息数カウントなど、環境省と一緒に実施している。

特に困っていることはないが、毎年テーマを決めてボランティア作業を実施している。

●委員

私はトラストサルン釧路で主に達古武地区を中心に、植樹やエゾシカから樹木を守る保護ネットを作る活動をしている。

植樹は大変な労力を使う作業だが、高齢者が増加しているため多くの方に参加してほしい。

●委員

釧路河川事務所は北海道開発局の出先機関として釧路川を管理している立場である。自然再生事業ではヌマオロや幌呂の工事の実施、川を中心とした地域づくりや河川そのものの利活用の推進を担うほか、地域のかわまちづくりの計画策定推進に協力している。

困りごとや協力いただきたいということではないのだが、我々は、実施している事業に対する認知不足やPRが不足しているため、そこにも力を注いでいきたい。

●委員

環境省は釧路湿原国立公園の管理と釧路湿原自然再生協議会の事務局を担当している。国立公園には保護と利用という大きな2つの機能があり、自然の保護の実施、訪れた人や地域の人たちに感動や学びを提供する場所になっている。みんなの湿原小委員会に関わる取り組みとしては、しっかりと自然を保護することのほか、釧路湿原の価値が伝わるようなストーリー作り、自然が損なれないような利用のルール作り、訪れた人に最高の感動を与えるためのインタープリテーション全体計画策定やアドベンチャートラベルの推進といったことである。

困っていることは、環境保全には予算が続きにくく事業展開が難しい状況であるということである。達古武湖のヒシの除去なども予算不足で続けづらくなっているため、自然再生や保全活動への参加に是非ご協力いただきたい。都市部では自然の保全やネイチャーポイント推進のために企業が資金提供や協力する仕組みができています。釧路湿原でも同様の支援や協力が得られるような仕組みづくりができれば良い。是非皆さんにご教示いただきたい。

●委員

私が所属する係は細岡展望台の整備や自然公園法による許認可等を担当しているが、私自身は主に鳥獣保護管理等を担当している。釧路湿原では鳥獣保護区の管理が主な仕事である。最近では鳥インフルエンザの感染が広まっており、釧路湿原等で鳥の死体発見の通報があった場合は私が回収している。エゾシカの糞による被害や希少な植物や植樹した樹木の食害などが問題となっているが、そういう被害を減らすための対策を行っている。

困っていることは、エゾシカの捕獲場所を探せないということ。エゾシカが集まっている場所を教えてください。

●委員

私は主に釧路湿原学習支援プラットフォームに関わっている。今後は各市町村教育委員会との連絡調整と研修や事業の実施の対応に当たっていく。

今後の課題は、環境教育をしっかりと行えるような人材育成の体制作りである。今後は釧路らしい教育が肝にもなる。そういうところで力添えしたい。

#### ●委員

当センターは、シラルトロ湖の水源地である雷別国有林において、ボランティアによる植樹等を支援している。

ボランティアは毎年募集しているが、新たな参加者は少なく、将来後継者が不足する懸念がある。

また、植樹した広葉樹のエゾシカ等による食害を防止するために保護管を使用しているが、保護管は1セット1,000円を超えるため経済的に非常に厳しい状況にある。積極的にエゾシカの捕獲をお願いしたい。

#### ●委員

私は北海道教育大学で准教授をしている。大学では生物学研究室を主宰している。水辺の生態系、特に海や川に生息している魚や無脊椎動物といった生き物の多様性や生態を明らかにする研究をしている。フクドジョウや魚に寄生するウオノエという甲殻類の研究やピオトープ作りなどもしている。2022年に釧路に着任した際に現在の生態系小委員会、再生普及小委員会に参加した。是非こちらの小委員会にもとお声掛けいただき参加している。

特に困っていることは無い。地域の生態系などの理解や自然再生に関連するような取組みに積極的に参加したい。環境というテーマでは科学的な根拠に基づかないような取組みが入ってしまう余地があり、そういう部分を防ぐためにも専門的な知識をもって協力したい。

#### ●委員

北海道環境財団は昨年度まで釧路湿原自然再生事業に紐づく再生普及行動計画オフィスを担わせていただいていた。昨年度で再生普及行動計画オフィスでの事業が終了となり、今年度からは湿原学習支援のプラットフォームの調整を担っている。北海道環境財団は、広く道民の環境保全活動を推進し、黒子となって資金提供や調整、ネットワーク作りなどに取組む団体となっている。

個人的な困りごとは、釧路に事務所が無いため不便であること。北海道環境財団としては、地域の中で調整できる組織があると良いと感じたことである。地域の中で中間支援や全体を調整して実務が担え、関係者の意見を聞いて動くことができる組織があると良いが、そういう役目を担うことは、どこの組織も手一杯だという話を聞くことが多かった。

#### ●委員

私は環境省ではなく北海道環境財団の所属である。コロナ禍前までは長いこと、再生普及小委員会やワンダグリーンダ事務局の手伝いをしていた。現在は、地域脱炭素や生物多様性保

全を地元で望ましい形でどのように進めていけるかを考える仕事をしている。地域づくりの中での自然再生ということに改めて関わりたいと思い 6 年ぶりに協議会に参加した。現在の仕事の柱は、主に地域脱炭素や生物多様性、地域の政策などについて、自治体の政策の支援体制を構築するというものである。また、学びの拠点として、動物園や水族館といった社会教育施設の可能性に着目して、札幌市円山動物園と一緒に気候変動教育プロジェクトという取り組みを行っている。

私自身がサステイナブルツーリズムに対して非常に興味があり、この釧路湿原や自然再生と絡めてどのように実現していけるか、盛り上げていけるかにとっても関心を持っている。関連したことに参加したい。

3 月 17 日午前に脱酸素と観光というオンライン勉強会がある。2 月にはご案内できそうなため参加いただきたい。

#### ●委員

私は主に災害や環境に関すること、最近は特に地震と原子力災害を多く扱うシンクタンクをしている。現在は奈良在住だが過去に小清水町に住んでおり、時々現地で小委員会に参加していた。所属のミッションは、災害対応の検討や体制の構築、災害医療だが、最近一番関わっているのは緊急被曝医療である。

困っていること、協力してほしいことは、すぐに思い浮かぶものは無い。こんな取り組みがあったら良いという意味では、釧路湿原や道東地域が災害にあった場合にどうするのか考えてほしいということ。災害後にどうになってしまうのかが心配である。その辺に対して何かできることがあれば参加して協力したい。

-----休憩 (5 分)

#### ●委員長代理

(テーブルトーク 1 回目の説明)

- ・各自「①」のくじと同じ色のテーブルに移動してほしい。
- ・自己紹介カードを机の上に並べてもらう。
- ・お互いのカードを見て、気になる内容についての質問、困ったことの共有や一緒に出来るような取り組みについて、自由に話をしてほしい。

-----テーブルトーク 1 回目 (計 6 テーブル) 開始 (会場録音無し)

○テーブル A (オンライン)

#### ●委員

私はこの釧路湿原自然再生事業の創成期を釧路開発建設部で担当していた。当時は辻井先生と「さて、どうするんだ？」というところから始まったが、自治体の担当者でタスクフォースを設置し、実践的にこの事業を進めていた。当時私は釧路湿原の自然再生事業はワイズユースが第一であるという辻井先生の想いに感銘を受け取り組んだ。ワイズユースとい

う言葉は最近聞かないが、原則は変わらないと思う。それを実現するための仲間作りと共通認識が大切だと思っている。この事業に携わっていたため、どのように変わったのか、どのような成果が出ているのかに注目しながら参加していきたい。

●事務局

私はインタープリテーション全体計画を担当している。本日は皆さんから釧路湿原の魅力をたくさんお話いただいた。そういう魅力を紡いでみんなが語れるような釧路湿原のストーリーを作っていくことを目的に仕事をしている。

本日のワークショップは、色々な自然再生の事業や各団体の方が行っている環境保全の取り組みなどを広く知っていただき、参加いただくことを大きな目的の一つとしている。自己紹介の中で色々なキーワードが出てきた。人材とお金が大きなテーマとしてあると感じている。皆さん個々に色々な事業をされている中で、知っていただきたいことや、小委員会でも取り上げてほしいことなど、感想を含めてお話いただきたい。

●委員

みんなの湿原小委員会は、教育や普及などをメインに扱う小委員会であると思う。特に民間の方はそういう部分に関心があり、参画しているのではないかと思う。環境というキーワードでは、科学的ではない話を主張して間違った方向に向かう事例が全国的にある。民間の方と我々専門家が一緒に協働した取り組みができる枠組み作りが今後は特に重要である。

●事務局

私は来年度に国土交通省で認可して進めることになっている釧路川流域のかわまちづくり計画策定のための作業を進めている。

-----中断-----

●事務局

(中断した状況を説明)

●委員

一年前の前回の小委員会に参加した際、大人数で活気があり、みんなの湿原小委員会という新しい形に変わり、再生事業の普及が変わっていくのではないかという印象を受けた。しかし、今回の小委員会に参加して、変わったのは枠組みだけであり中身は変わっていないという印象を受けた。前回の小委員会の中で紹介されたポンチ絵のような内容や、みんなの小委員会で何を目指していくのかといったところについて関係者を含めてもう少し意見を聞きたかった。

●事務局

市民に多く参加していただくために何をするかが課題だと思っている。

(ブレイクアウトルーム移動の説明)

---

—————テーブルトーク 1 回目 終了 (会場録音無し)

●委員長代理

(テーブルトーク 2 回目の説明)

- ・各自「②」のくじと同じ色の目印があるテーブルに移動してほしい。
- ・自己紹介カードを机の上に並べる。
- ・お互いのカードを見て、気になる内容についての質問、困ったことの共有や一緒に出来るような取組みについて、自由に話をしてほしい。
- ・最後に次回以降に掘り下げたい話などの内容をグループごとにまとめる。

---

—————テーブルトーク 2 回目 (計 7 テーブル) 開始 (会場、オンライン録音無し)

●委員長代理

テーブルトークの時間を終えたい。オンライン参加者の方、難しい環境の中で協力いただきありがとうございます。本日の話し合いで印象に残ったことなどをお話いただきたい。

●委員

こういう活動にはほとんど今まで参加していなかったが、今後機会があれば参加したい。色々な方が自然保護に興味をお持ちのため、そういう皆さんが団結することで今後の自然保護がうまくいくのではないかという気がした。

●委員

テーブルトークでは、環境を守りながら、来てくれた方の満足度を上げるかについて話しをした。時間が足りないと皆さんおっしゃっていた。

●委員

釧路総合振興局からネットワークを構築するという話があった。釧路の観光、自然、自然再生が全て分かるような場所があればネットワークが広がるのではないか。そうしたネットワークを広げていけば良いのではないかと皆さんからの意見があった。

●委員

色々な方の多様な意見を聞くことができた。現在のこの小委員会は観光開発小委員会のように少し違和感を覚えている。自然再生法という法律に基づいた小委員会であるため、法律そのものも含めて再生については是非関心を深めてほしい。

●委員

テーブルトークではタンチョウの話をした。昔は牛に威嚇されるとタンチョウは逃げていたが、最近はタンチョウが牛の頭を突いて牛が逃げしており、タンチョウは牛の餌からトウモロコシを拾って食べているという状況である。

●委員

こちらのテーブルでの議論のテーマは何であったのか。会話が聞こえておらずに分からなかった。

●委員

そちらではどんな話題で話をしていたのかが分からなかった。

●委員長代理

オンライン参加者の方は、どういう様子であったか、どういう状況で困ったのか、やりづらかった点などを後ほどチャット等でお知らせいただきたい。これから 5 分間フリータイムにしたい。話し足りなかった方はお話し下さい。

-----フリータイム 録音無

●委員長代理

皆さんが書いた自己紹介カードを壁に貼り出した。関心のある方は後で見ていただきたい。今後、次回もワークショップをやる場合に、どのような話し合いがしたいかということも含めてお考えいただきたい。本日はご協力ありがとうございました。

●事務局

次回のみんなの湿原小委員会でもワークショップを開催したい。オンラインとの併用は難しいため、次回は会場出席者のみでワークショップを実施する形で検討している。ご意見があればいただきたい。次回のワークショップでのテーマについて、後日でも良いのでお知らせください。

本日のワークショップにより、様々な思いや解決が難しい色々な問題があることがわかった。情報を共有すると解決の糸口が見つかることもあるかもしれない。今後はそういうことが容易にできるメーリングリストを作りたい。事務局がメーリングリストを管理し、事務局からの情報発信や小委員会の開催・イベント案内などをするほか、委員から事務局にお寄せいただいた色々な情報や呼びかけなども事務局から発信したい。メールアドレスがわからない方には後ほどお聞きすることがある。

委員長から本日の小委員会のご講評をいただきたい。

●委員長

【4. 講評】

前半部分に事務局からの事業報告があったが、この部分はどうしても必要なことのため

今後も省略はできない。後半部分ではお互いの考えを理解することから始めるためにワークショップを開催した。みんなの湿原小委員会は、多様な立場の人が集まることができる小委員会であることが合併した目的の一つである。小委員会にはミッションがあるが、このつながりを活かしながら新しくやれることを委員からボトムアップしてほしい。今後はメーリングリストも作られるということ。より深いネットワークで実践の場につなげたい。本日は長い時間お疲れさまでした。

●事務局

第2回みんなの湿原小委員会を閉会する。

(終了)